STROKE LAB / CLINICAL NOTE

発話を聴く条件をそろえる

発話明瞭度・発話の自然度の独自記録ノートです。
正式尺度の基準を手元に置き、数値と判断の理由を記録します。

対象者ID：_____　実施日：_____

実施者：_____　原疾患・経過：_____

本人の目標｜誰に・何を・どの場面で伝えたいか

条件	記録
課題・話題／収録時間	
音声のみ／対面・映像あり	
聞き手・本人への慣れ	
場所・雑音・距離	
姿勢・義歯・聴力・疲労	
服薬後の時間・休憩	
録音機器・位置・再生条件	

録音同意・保存方法／未実施や条件変更の理由

会話、音読、復唱は課題名を分けます。通常条件の発話を記録してから支援を試します。

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

明瞭度と自然度を分けて記録

使用した尺度・出典・版：_____
数値の方向と段階数を確認し、二つの評定を合計しません。

明瞭度の9段階を採用する場合：1、1.5、2、2.5、3、3.5、4、4.5、5。
1が聞き取りやすい側。9点満点や正答率（%）ではありません。

明瞭度尺度：5段階・9段階・その他（　　）

自然度尺度・範囲：_____　良い方向：_____

評価者／聴取回数	明瞭度	自然度	判断の理由・聞こえた特徴
A：			
B：			

評定のずれ｜どの語・どの場面で判断が分かれたか

観察｜速さ・区切り・抑揚・声量／聞き手の負担

発話サンプル不足・尺度未確認の場合は「評定不能／未評定」と理由を記入。
自然度の中間段階は採用尺度の原文で確認してください。
参考：伊藤元信．音声言語医学 1993;34:237–243．doi:10.5112/jjlp.34.237

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

一つ変えて、生活で確かめる

標準条件の評定とは分けて、支援への反応を記録します。
以下の生活記録は独自の観察欄であり、標準化された得点ではありません。

対象者ID：_____　実施日：_____

伝える内容／聞き手／場所

条件・変えたこと	伝わった内容・聞き返し	本人の負担・必要な援助
普段の話し方		
一つ変えた条件		
別の内容・相手		

次の生活目標｜誰に・何を・どの手段で伝え、どう確認するか

次回確認日／再評価でそろえる条件

例：声の区切り、雑音、話題の提示などを一つずつ変える。慣れや内容の記憶の影響も記録。
正規AMSD用紙・基準音声の代替ではありません。STROKE LAB／2026年10月27日。